

2013
Number

081

TAMA UNIVERSITY

Rapport

Contents

地域プロジェクト発表祭 P.02
26プロジェクトが成果を発表

Business Meeting ASIA 2013 in Tama
多摩グローバル科学技術フォーラム P.03

「BASEBALL BUSINESS AWARD 2012」
豊田ゼミ大賞受賞！ P.05
多摩大学フットサル部
東京都大学フットサルリーグ一部昇格

News
「社会人基礎力育成グランプリ 2013」決勝大会 P.06
村山ゼミ「会場特別賞」受賞！

2012年度父母懇談会
経営情報学部セミナー 報告 P.07

写真で見る多摩大学の歴史④ P.08



BASEBALL BUSINESS AWARD 2012

(読売新聞社 主催)

豊田ゼミが大賞受賞

2013年3月3日(日) 東京ドームにて
表彰セレモニー開催

審査委員長の早稲田大学スポーツ科学学術院
教授・原田宗彦氏から豊田ゼミ代表、2年生
の村田沙穂さんに表彰盾と賞金が授与(写真
右上)

巨人オープン戦の試合開始に先立って、東京
ドームグラウンド上で、優秀賞受賞の他大学
と共に記念撮影(写真左上)

室内でのプレゼンテーションを終えた豊田ゼ
ミ生(写真下)

2012 年度 地域プロジェクト発表祭 2013.2.12

2013 年 2 月 12 日 (火) 10 時～18 時、多摩キャンパス 001 教室にて、多摩大学が地域活性化マネジメントセンターを中心に推進する「プロジェクト型地域学習」の 2012 年度成果発表が行われました。多摩地域を主なフィールドに展開された 23 のプロジェクトの発表に加えて、招待発表として、奈良県の帝塚山大学が 2 プロジェクト、城南静岡高等学校が 1 プロジェクトのプレゼンテーションを行いました。会場には行政、企業、NPO、地域の方々も出席され、質疑応答が活発に行われました。

開会の挨拶 諸橋正幸 地域活性化マネジメントセンター長		司会 松本祐一 経営情報学部准教授		
テーマ		ゼミ名	連携団体	
第一部	1	コミュニティラジオ局における地域密着型企業コマーシャル制作	中村その子 ホームゼミ	FM 西東京・三幸自動車株式会社
	2	多摩うどんぼんぼこ・聖ヶ丘商店街の課題プロジェクト	梅澤佳子 ホームゼミ	多摩うどんぼんぼこ・聖ヶ丘コミュニティセンター
	3	スポーツ「ごみ拾い」プロジェクト	久恒啓一 ホームゼミ	一般社団法人スポーツゴミ拾い連盟・JT B
	4	浦賀を中心に見た江戸幕府の対外貿易と海防	寺島実郎 インターゼミ「多摩学」班	
	5	近隣交流：七輪プロジェクト	梅澤佳子 ホームゼミ	諏訪名店街・あしたや・まちづくり専門家会議・諏訪 5 丁目自治会・多摩うどんぼんぼこ・ひじり館・一本杉炭焼き倶楽部・多摩グリーンボランティア森木会
	6	AR ねこ合わせ地域イベント	彩藤ひろみ ホームゼミ	
	7	多摩地域 WEB MUSEUM 制作 ～多摩地域企業のインタビュー調査～	中庭光彦 ホームゼミ	京王電化工業株式会社・北島牧場・株式会社岡直三郎商店
	8	サンリオピューロランドの課題解決イベントの企画・運営	松本祐一 プロジェクトゼミ 「集客施設のマーケティング」	株式会社サンリオエンターテインメント
第二部	9	世代交流：みんなの菜園プロジェクト	梅澤佳子 ホームゼミ	多摩市立諏訪小学校・諏訪名店街
	10	永山活性化プロジェクト	酒井麻衣子 ホームゼミ	ジョイバックレジャー株式会社
	11	諏訪小ふれんず「英語で遊ぼう！」	石川晴子 ホームゼミ	多摩市・多摩市立諏訪小学校・法政大学・帝京大学・国士舘大学
	12	多摩ニュータウン近隣センターを核としたコミュニティ再生プロジェクト	片桐徹也 プロジェクトゼミ 「公民連携による地域／社会貢献ビジネス」	NPO 法人多摩子ども劇場・多摩 NPO センター運営会議・多摩大学総合研究所・多摩市・多摩信用金庫・セブン & アイグループ・NTT 東日本・NPO 法人福祉亭
	13	多摩り場 語り場プロジェクト	梅澤佳子 ホームゼミ	新都市開発センター株式会社永山営業所・多摩市教育委員会・多摩大学教職員
	14	東京ヴェルディプロジェクト	久恒啓一 ホームゼミ	東京ヴェルディ
	15	東北を活性化するコミュニティ形成 ～福島県平田村を事例にして～	寺島実郎 インターゼミ「地域・震災」班	福島県平田村
	招待発表	高校生が創り運営するオンラインショッピングモールまなびや	城南静岡高等学校 指導教員 久保田和夫 先生	
大学生がつくる奈良県未来事業 ～優秀賞受賞とチーム力の重要性～		帝塚山大学 経営学部		
経営学部学生が科学振興に貢献できる可能性について ～iPS 細胞を事例として～		経営学部 日置慎治 学部長 指導教員 菅万希子 専任講師		
第三部	16	にごみプロジェクト	久恒啓一 ホームゼミ	津久井商工会・東京家政学院大学
	17	国体 PR プロジェクト	松本祐一 プロジェクトゼミ 「地域プロジェクトマネジメントの手法 ～多摩市のシティセールス」	多摩市
	18	多摩市愛宕地域の通所介護施設「笑う門」プロジェクト	地域活性化マネジメントセンター (2012 年度インターンシッププログラム)	多摩市通所介護施設「笑う門」
	19	多摩手みやげプロジェクト	久恒啓一 ホームゼミ	多摩市・京王電鉄株式会社・株式会社サンリオエンターテインメント・多摩センター地区連絡協議会・せいせき観光まちづくり会議(桜ヶ丘商店会連合会)・株式会社ベネッセコーポレーション・多摩信用金庫・多摩商工会議所・東京多摩調理製菓専門学校・ボンテ (NPO 法人シーズネットワーク)
	20	近隣交流：永山グリーンプロジェクト	梅澤佳子 ホームゼミ	多摩市永山公民館・多摩グリーンボランティア森木会
	21	多摩地区にクラシック音楽を！	樋口裕一 ホームゼミ	多摩市立唐木田コミュニティセンター菖蒲館・桐朋学園大学
	22	福島県須賀川市・大震災からの新生・再生プロジェクト	望月照彦 ホームゼミ	福島県須賀川市
	23	多摩大学ゼミナール in 永山学園祭	梅澤佳子 ホームゼミ	新都市センター開発株式会社永山営業所・多摩市永山公民館・多摩市市民団体 (バルテノン多摩ストリートオルガン / ザ・ドロシース / 多摩ハワイアンフラ)・多摩大学教職員
来賓ご挨拶 岩井洋 帝塚山大学学長		閉会の挨拶 久恒啓一 経営情報学部長 懇親会		

Business Meeting ASIA 2013 in Tama 多摩グローバル科学技術フォーラム

2013年2月1日（金）10:30～19:00 多摩キャンパスにて、「多摩グローバル科学技術フォーラム～Business Meeting ASIA 2013 in TAMA～」が開催されました。多摩大学（経営情報学部国際交流委員会）、（社）アジアサイエンスパーク協会主催で、（株）TNP パートナース、多摩信用金庫の協賛を得て実現し、韓国企業関係者（9社11名）と日本企業関係者（10社16名）、多摩大学

の教職員と多摩大生46名が参加しました。

今回の企画では、韓国のテクノパーク関係者及び韓国大邱市の関連企業とグローバルな展開に関心を持つ多摩地域における企業との交流が、フォーラムとビジネスマッチング形式で行われました。多数の通訳が配置され、言葉の壁を超えて日韓の企業の交流とビジネスマッチングをそれぞれの視点で実体験できる機会となりました。

韓国企業・日本企業・産学連携機関 紹介プレゼンテーション

フォーラムは、多摩大学経営情報学部 趙佑鎮教授が司会を務め、久恒啓一 経営情報学部長と李ジョンヒョン（社）アジアサイエンスパーク協会会長による開会挨拶から始まり、韓国企業と日本企業、東海大学、多摩大学がそれぞれ通訳を介して紹介プレゼンテーションを行いました。



李会長（左）と趙教授（右）



韓国企業のプレゼンテーション



日本企業のプレゼンテーション



多摩大学経営情報学部出原ゼミ

日韓ビジネスマッチング

アゴラでは各テーブルに通訳を配置して、韓国と日本の企業が個別に商談会を行いました。日本企業は関心をもった韓国企業のテーブルをまわって情報交換。多摩大生もグローバルなビジネスの現場に密着して、実際の商談の様子を見聞しました。



参加者ディスカッション

「グローバルな視点からみた東アジアと日韓の新たな交流とネットワーク」をテーマに意見交換が行われました。



熱心に聞き入る参加者たち



金美徳 経営情報学部教授

親睦交流会

親睦交流会では、李（社）ASPA 協会会長より久恒経営情報学部長に協会会員証が授与され、諸橋正幸副学長が閉会の言葉を述べました。



学食を会場に参加者は親睦交流



協会会員証を手に、久恒教授と李会長



参加者全員による記念撮影

〈参加した学生の感想〉

普通の大学では学べないこと、いい勉強になった（趙ゼミ1年 森岡賢司）／普段学べないことを学べた。雰囲気や体験は貴重、この先活かしたい（趙ゼミ1年 伊野智也）／日本と韓国に興味を持ち、いろいろ知ることができた。貴重な体験（趙ゼミ1年 矢澤捷之）／商談の場に参加して、文化や言葉の違いで異国の企業との契約は大変だと感じた（趙ゼミ1年 高野佐和子・彩藤ゼミ1年 岡本唯）／日常では味わえない空気。日本と韓国の企業について知ることができた（金ゼミ2年 江成麻衣子）／韓国と日本、互いの企業がどう思っているのかを聞くことができてよかった（金ゼミ2年 市村江梨果）／IT系の企業の話聞いて、自分の研究分野の参考になった（出原ゼミ2年 古西政樹）／企業の方々の話を聞いて、今までの自分の考えとまったく違い衝撃的。韓国の勢いを感じた。アジアに進出している日本企業で働いてみたいと思った（金ゼミ3年 加藤駿介）

清松 敏雄 ゼミ



プロフィール

清松 敏雄 (キヨマツ トシオ)

経営情報学部准教授。

東京大学経済学部卒業。東京大学経済学研究科修士課程修了(経済学修士)。立教大学ビジネスデザイン研究科修了(博士、経営管理学)。青山監査法人、株式会社ビジネス・トラストを経て、清松公認会計士事務所を開設。平成22年度より多摩大学准教授。

『継続的な努力』をする力と「異文化理解」

清松ゼミでは、次の2つの点を軸に、個々の能力向上を目指しています。

① 会計の学習を通じ、(a) 企業の動き(取引の流れを含む)を理解すること、(b) 熱意と向上心を持って継続的な努力ができるようになること

② ゼミ生を中心に夏休み等に海外や地方に出向き、異文化に触れること

①の(a)は、企業がどのような取引を行い、利益の獲得を目指しているのかをできるだけ正確に「推測する」力を得ることが目標です。業務の現場にいない以上、完璧に理解するのは無理でも、推測してイメージをつかんで欲しいと考えています。次に、①の(b)については、一時の努力ではなく継続的に努力をできる人材になろうということです。最後に、②については、学生のうちに異文化に触れることで、自らの置かれた状況を改めて振り返り、現在の恵まれた環境の中でやるべきことを発見・再確認して欲しいということです。

樋口 裕一 ゼミ

樋口裕一ゼミの学生がクラシック音楽コンサートを企画・運営

「小論文の神様」と称される樋口裕一経営情報学部教授のもう一つの顔は、クラシック音楽への造詣が深いこと。樋口ゼミでは多摩地域にクラシック音楽を広め地域のひとと文化の交流に貢献する活動を行っています。2013年2月3日(日)19時~多摩市立永山公民館5Fペルプホールにて「音符の森の木の下で 楽譜のワンダーランド」を

テーマとして、樋口裕一ゼミが企画・運営するクラシックコンサートが開催されました。今注目の若手ギタリスト松尾俊介さんとコロラトゥーラ・ソプラノの歌声で聴衆を魅了する森美代子さんのコラボレーションで、親しみやすい曲目とアットホームな雰囲気のコラボレーションに、会場から惜しみない拍手がおくられました。



コロラトゥーラソプラノ・森美代子さんとギター・松尾俊介さん

菅野 光公 ゼミ

「多摩学」のフィールド・ワーク(現地見学)

「多摩学」とは、多摩大学のオリジナル学問分野です。多摩川と相模川とに囲まれた地域を対象として、そのエリアにまつわる自然・歴史・地理・文化・産業・政治経済等について、多角的に学んでみようというのが、菅野ゼミなりの多摩学コンセプトです。日曜日のゼミ・ハイキングを兼ねて、多摩学対象先の現地を訪問し、周辺を歩きながらフィールド・ワークとしゃれ込んでいます。



多摩出身の作家 中里介山(代表作:『大菩薩峠』)ゆかりの禅林寺(羽村市)にて

2012 年度秋学期 経営情報学部 成績優秀者奨学生

学業及び成績が優秀で人物及び健康ともに優れ、他の模範となる学生に対して多摩大学奨学金規程に基づき、審査を経て区分に応じた奨学金を支給しています。

① 1 年次

・区分 1

氏 名
松村 勇季
・区分 2
藤間 翔
松下 亜樹
三代 ひろな
木下 雄太
山崎 真理
小林 隼人
岡本 唯
瀧口 遥
池ヶ谷 美光
居城 菜摘
谷本 亮
杉山 友哉
鈴木 舜
大山 茜
渡辺 和也
吉野 翔
塩原 志織
八木野 貴峰
小西 真奈美

② 2 年次

・区分 1

氏 名	ゼミ教員氏名
宮崎 菜々	齋藤 S. 裕美
・区分 2	
山崎 優輔	—
鯛川 良	中村 その子
萬谷 夏実	浜田 正幸
木下 周	豊田 裕貴
市村 江梨果	金 美徳
芝 祐紀	豊田 裕貴
柴田 昂志	齋藤 S. 裕美
赤坂 佳紀	下井 直毅
平 実佳	豊田 裕貴
岡本 菜摘	趙 佑鎮
金子 力生	豊田 裕貴
中村 貴大	石川 晴子
秋山 千晶	今泉 忠
工藤 祐輔	—
富岡 幸裕	大森 映子
江守 央	酒井 麻衣子
小菅 慧	中庭 光彦
長間 裕一	趙 佑鎮
伊東 美咲	趙 佑鎮

③ 3 年次

・区分 1

氏 名	ゼミ教員氏名
小沼 俊	金 美徳
・区分 2	
秋山 智尋	酒井 麻衣子
伊東 建貴	樋口 裕一
松本 凌	—
志村 美栄	豊田 裕貴
吉田 敏子	金 美徳
伊東 佑馬	金 美徳
兼本 大樹	—
大串 定之	—
加藤 駿介	金 美徳
内田 昂秀	酒井 麻衣子
村上 夏未	豊田 裕貴
高橋 もも	中村 その子
松下 麻里	中庭 光彦
蝶野 慶一	望月 照彦
小菅 結唯	—
吉田 美樹	浜田 正幸
菅原 佳奈子	今泉 忠
丹木 茜	豊田 裕貴
田村 陵	中村 その子

※評定平均順

【成績優秀者奨学金】

区分	奨学金支給額	奨学生	選考方法
1	350,000 円 (当該学期分の授業料)	1 年次から 3 年次の各学期 1 名	各学期毎、学年別成績が上位の者から順に区分 1 及び区分 2 の奨学生候補者を選考
2	50,000 円	1 年次から 3 年次の各学期 20 名以内	

経営情報学部 2012 年度 MOSC 賞・MOSC 特別賞・MOSY 賞

コツコツと努力を重ねて、学業や社会活動において優れた業績を上げた学生を褒賞する制度を設けています。

● 2012 年度 MOSC 賞 (Most Outstanding Student of The Class)

当年度の各講義科目において顕著に優れた成績を収めた学生(1 名又は 2 名)に与えられます。〈初級簿記 A〉松下亜樹・松村勇季 〈初級簿記 B〉小川名亮佑 〈中級簿記〉宮崎菜々 〈産業社会論入門Ⅱ(会計)〉木下雄太 〈管理会計入門〉志村美栄 〈財務報告〉流川真帆 〈原価分析〉宮崎菜々 〈経営情報論Ⅰ〉佐藤勇矢 〈経営情報論Ⅱ〉柴田昂志 〈現代メディア論〉上野聡美 〈English Expression II G〉三代ひろな・居城菜摘 〈TOEIC II B〉吉田美樹

● 2012 年度 MOSC 特別賞 (Most Outstanding Student on The Campus-Special Award)

大学在学中 4 年間を通じて総合的に最も優秀な成績を収めた卒業予定者 5 名に与えられます。〈4 年生〉高遠恵治・小野崎里美・西井裕介・加藤祐巳・塚本早希子

● 2012 年度 MOSY 賞 (Most Outstanding Student of The Year)

当年度、4 年次を除く各学年において総合的に優秀な成績を収めた学生 5 名に与えられます。〈3 年生〉小沼 俊・伊東建貴・松本 凌・加藤駿介・志村美栄 〈2 年生〉宮崎菜々・山崎優輔・鯛川 良・市村江梨果・萬谷夏実 〈1 年生〉藤間 翔・山崎真理・木下雄太・松村勇季・池ヶ谷美光

豊田裕貴ゼミ生が、読売新聞社主催の 「BASEBALL BUSINESS AWARD 2012」 に於いて、大賞を受賞しました！！



豊田裕貴ゼミ生が読売新聞社主催の「BASEBALL BUSINESS AWARD 2012」に於いて、大賞を受賞し、その表彰セレモニーが2013年3月3日（日）東京ドームでのオープン戦前にグラウンド上で行われました。（豊田ゼミ「マーケティング。特に消費者行動とブランドマネジメントをテーマに研究」）

表彰式に先立って、東京ドームの会議室にて、原田宗彦審査委員長、桃井恒和 読売巨人軍代表取締役社長等のご臨席の下、受賞企画のプレゼンテーションが行われました。

ゼミ生が挑戦したテーマは「プロ野球界のブランド価値を高めるための戦略や観客動員数を増加させるための提案、また、普段研究している学問をベースにした新たなビジネスモデルをまとめる」。受賞企画のタイトルは「映画館の試合中継による本拠地“メッカ”化計画」。地方の映画館で臨場感あふれる野球中継を行い、ドームでの野球観戦を疑似体験してもらうことにより、最終的に本拠地である東京ドームに地方在住のファンを集客するという内容が高く評価されました。



会議室で受賞企画を発表する村田沙穂さんたちゼミ生

【村田沙穂さんのコメント】

今回「ベースボールビジネスアワード 2012」にて大賞を受賞することができ、大変嬉しく思っております。この提案を考える上で難しかったことは、ゼミで学んだことを実際の企画に結びつけることでした。しかし私のチームはその難しさを苦勞と思わず、楽しむことでターゲットにも楽しんでもらえる企画を考えることに努めました。また表彰状授与の際に読売新聞社の桃井社長や原田審査委員長の前でプレゼンをさせていただいたり、グラウンドでの表彰セレモニーなど貴重な経験をさせていただきました。この経験をステップとしてまた新たなことに挑戦していこうと思います。

〈優秀賞〉

新潟経営大学 福田ゼミナール／関東学園大学 天野ゼミ／名古屋学芸大学 長瀬拓也／明治大学 高島知香／跡見学園女子大学 芝原ゼミ 2年Aチーム（敬称略）

多摩大学フットサル部がJFA（日本サッカー協会）公認 東京都大学フットサルリーグ一部に昇格します！

2012年5月10日に設立した、多摩大学初の体育会であるフットサル部が、法政大学、創価大学、和光大学、国士舘大学、東京農業大学、拓殖大学などのチームとの戦いを制し、東京都大学フットサルリーグ1部昇格を決めました。

〈大学フットサルリーグ戦績〉

第1節 8/26（日）多摩大学 VS 法政大学サルケル部 3-2 で勝利
第5節 9/23（日）多摩大学 VS SokaFuts（創価大学） 7-2 で勝利
第7節 10/14（日）多摩大学 VS Vanfleet（和光大学） 3-1 で勝利
第11節 12/23（日）多摩大学 VS SAJugaria（明治学院大学） 3-4 で敗退
第15節 2/17（日）多摩大学 VS LIBERIA（国士舘大学） 3-1 で勝利
第16節 2/20（水）多摩大学 VS SevenStar（東京農工大学） 8-1 で勝利
第17節 2/28（木）多摩大学 VS FC ファンロン（拓殖大学） 4-3 で勝利

大学日本一になる。

多摩大学フットサル部は、本気で日本一を目指しています。
本気で目指せるから、本気で目指しています。

フットサル部はこれからも全力で臨みます。
これからも応援をよろしくお願いいたします！

数多くの「条件」と「環境」が揃っているからです。

- ◎ゼロから部を作り上げてきた、志の高い選手・マネジメントスタッフ。
- ◎日本でほぼ唯一の、プロ監督（元フットサル日本代表候補）による指導。
- ◎多くのフットサル大会やチームから利用のオフアワーが殺到しているフットサルコートでの練習環境。
- ◎三浦和良選手の所属する横浜FCとの提携による、強力なフットサル部のマネジメントサポート体制。

そして、結果が出始めました。

- ◎大学フットサルリーグ一部昇格。
- ◎フットサル日本代表のミゲル・ロドリゴ監督による多摩大学での直接指導の機会。
- ◎東京都選抜に選ばれる選手輩出。



実践的事業経営特講

イメージではなく、
企業の本物の姿を知ろう

経営情報学部 村山貞幸教授による「実践的事業経営特講」は、2年生を中心としたキャリア教育科目で業界を研究する授業です。学生は深く分析しないまま、企業をイメージで捉えがちです。学生が関心を持ちにくい業界でも、一般に考えられているイメージと実際の内容は違うということを知ること、就職活動における選択の幅が広がります。授業では金融、介護、IT、物流、アパレルなど様々な業界の方を招いた講義が行われています。企業の方の話を直接聞くことで、学生には「業界の実際の構造を知り、就職活動の対象としてどの業界もあり得ると思ってもらいたい」と村山教授は考えています。



(株)ジェアイエヌ(メガネ小売業)の東村広祐さんによる講義

キャリア支援講座

就活に向けて、
多摩大学初! 演劇型出陣式

2012年12月12日(水)16時20分～18時30分、多摩大学001教室にて「就活出陣式」が開催されました。3年生にはこれから就職活動が始まるという意識を持ってもらい、大学が応援していることも知ってもらおうと、キャリア支援講座の総決算としてキャリア支援課が企画。音楽座ミュージカルIYOKUBAの協力のもと、会場をラジオの公開収録の場に設定し、未来からのメッセージを映像で伝える、というショー仕立てのこれまでにない取り組みで行われました。学生たちは事前の映像作りに参加することで、グループワークや達成感を実感しました。



IYOKUBA の劇から始まった出陣式

ものづくり企業の魅力発見セミナー

多摩大生が他大学生とコラボで
企業の魅力を発信!

2012年12月14日(金)16:00～西武信用金庫八王子支店にて、首都圏産業活性化協議会による「ものづくり企業の魅力発見セミナー」が開催され、大学生の企業研究チームによる「ものづくり中小企業」15社を対象とした研究成果の発表が行われました。多摩大学中庭光彦ゼミの学生も他大学の学生と一緒に多摩地域の「ものづくり中小企業」を訪問し、その魅力をリーフレットにまとめた活動の成果を訪問先の企業の方の前に発表しました。多摩地域には、オンラインの技術・製品を持つ優良中小企業が集積しているにも関わらず、学生の就職先としての情報が不足している現状があります。今回のセミナーは日本のものづくりを支える多摩地域の企業を知る好機となり今後もその成果が期待されます。



中庭ゼミ生が研究成果を発表

News

望月ゼミ博覧会 2012

2012年12月1日(土)10時～18時、多摩大学101教室にて「望月ゼミ博覧会2012」が開催されました。この博覧会は、経営情報学部 望月照彦教授の退任に際し、望月ゼミの伝統を受け継ぎ次代への力にしていけるための「知の博覧会」として現役生が企画したものです。テーマは、OBにゼミでの学びを社会でどのように成果として結実させたかを聞き、現役生はそれを未来に向けていかに活かしていくか学び取ること。OBによるプレゼンテーション、現役生が登壇したシンポジウム、望月教授による記念講演などが行われ、終了後は学食にて懇親会が開催されました。



「望月ゼミとは何か」の問いに答える現役生たち

社会人基礎力育成グランプリ 決勝大会で、村山ゼミが「会場特別賞」受賞!

村山貞幸ゼミ「日本大好きプロジェクト」は、2013年3月4日(月)日経ホールにて行われた日本経済新聞社主催「社会人基礎力育成グランプリ2013 決勝大会」で、「会場特別賞」を受賞しました。

村山ゼミは2012年11月14日から行われた「関東地区大会」で優秀賞を受賞し、決勝大会への出場が決定しました。今大会では、全国から92大学109チームが参加し、各地区の優秀賞受賞8校が決勝大会に出場して自分たちの取り組みについて発表を行いました。「社会人基礎力育成グランプリ」は、大学での授業・活動を通じて、学生の社会人基礎力がどれだけ成長したかを競う大会で、村山貞幸ゼミ「日本大好きプロジェクト」は、過去に「社会人基礎力育成グランプリ2011」決勝大会にてグランプリを受賞しています。日本の伝統文化に多くの人々が触れて大好きになってもらうため、年間150回を超える幼稚園や保育園などへの訪問イベントや東京ミッドタウンなどでの大型集客イベント開催に突き抜けたプロ意識で取り組む村山貞幸ゼミは、圧倒的な活動量で学生の社会人基礎力を鍛え上げます。

今決勝大会でも、その実力が会場の皆様に高く評価されました。



プレゼンテーションするゼミ生



表彰状を手に受賞の挨拶

【大学間連携】多摩大学—帝塚山大学（奈良県）

多摩大学は帝塚山大学と連携協定を結んでいます。同じ経営を学ぶ学生たちが双方の大学で行われた研究・プロジェクト発表祭に参加し、お互いの研究活動において良い刺激を受けるとともに交流を深めました。

2013年2月9日（土）帝塚山大学「研究・実践学生発表祭」に多摩大生が参加

■松本祐一ゼミ

テーマ 「サンリオピューロランドの課題解決イベントの企画・運営」

■中庭光彦ゼミ

テーマ 「多摩地域 WEB MUSEUM 制作 ～多摩地域企業のインタビュー調査～」



多摩大学の学生が帝塚山大学にて発表

2013年2月12日（火）多摩大学「地域プロジェクト発表祭」に帝塚山大生が参加

■帝塚山大生（指導教員 経営学部 菅 万希子 専任講師）

テーマ 「大学生がつくる奈良県未来事業 —優秀賞受賞とチーム力の重要性—」

テーマ 「経営学部学生が科学振興に貢献できる可能性について —iPS 細胞を事例として—」



帝塚山大学の学生が多摩大学にて発表

【高大連携】多摩大学—城南静岡高校

多摩大学は城南静岡高校生が運営する本格的なネットショッピングモールプロジェクトを応援しています。

2013年2月12日（火）多摩大学「地域プロジェクト発表祭」に城南静岡高校生が参加し、優れたプレゼンテーションスキルによる発表が行われました。

■城南静岡高校生（指導教員 久保田和夫 先生）

テーマ 「高校生が創り運営するオンラインショッピングモールまなびや」



城南静岡高校生が多摩大学で発表

2012 年度父母懇談会 多摩大学経営情報学部セミナー 報告

2013年3月3日（日）13:00～多摩キャンパス 001 教室にて、「2012 年度父母懇談会 多摩大学経営情報学部セミナー」が開催され、ご父母の皆様 158 名のご参加がありました。開会に際して、杉田文章 経営情報学部教授が「多摩大学フットサル部東京都大学リーグ一部昇格」を報告、後援会長の原山武敏様からはご挨拶のことばをいただきました。

今回の父母懇談会は三部で構成され、第一部では、経営情報学部の教員による多摩大学の教育内容と人材育成についての講演、第二部では社会人として活躍している OB・OG を招いて、学生生活の過ごし方や就職活動などについてのパネルディスカッション、第三部は学生食堂に場所を移して、教員とご父母、OB・OG も加わり交流会が行われました。



第一部

- ・経営情報学部長 久恒啓一教授による挨拶
「多摩グローバル人材の育成にむけて」
- ・各分野で活躍する人材育成に向けての取り組み
〈グローバルビジネス分野〉

経営情報学部 金美徳 教授

〈地域ビジネス分野〉

経営情報学部 中庭光彦 准教授

〈ビジネス ICT 分野〉

経営情報学部 豊田裕貴 教授



久恒啓一 教授



金美徳 教授



中庭光彦 准教授



豊田裕貴 教授

第二部 パネルディスカッション

「多摩大学 OB・OG が語る、多摩大学での 4 年間と現在～社会で活躍するために今取り組んでほしいこと」

コーディネーター：

経営情報学部 梅澤佳子 准教授

パネリスト：

経営情報学部 OB・OG 6 名



梅澤佳子 准教授



中田将来さん



西村遼さん



牧田亜生さん



星野稔和さん



槌屋卓馬さん



石黒秀多さん

第三部 交流会

参加者同士が和やかに歓談



多摩大学の入学式や卒業式、オープンキャンパスなどで歌われる学園歌は、時を経てもその音楽性の高さは変わることなく聴く人々の心に深く響く魅力を持っています。

人生の節目節目に口ずさんでみてください。



多摩大学学園歌「この輝ける日々よ」

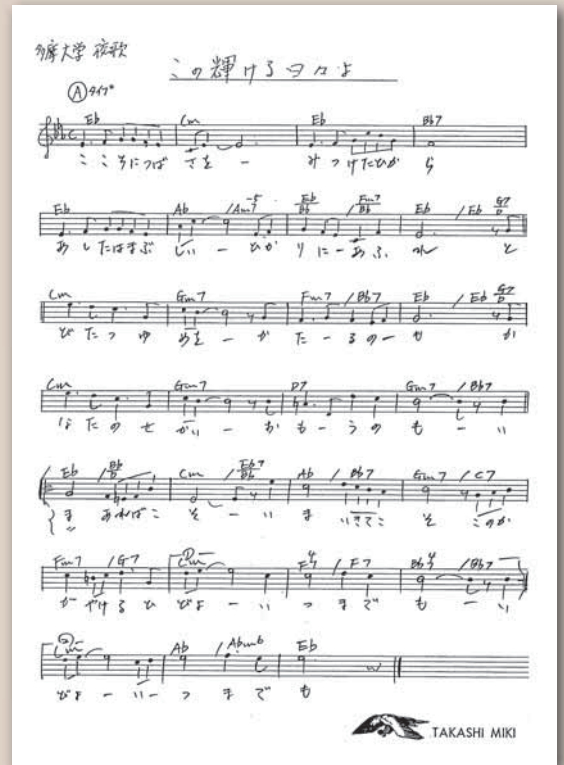
日本の歌謡界を代表する作詞家 阿久悠氏と作曲家 三木たかし氏によって、
つくられました。

誰しもが一度ならず歌った経験のある校歌や学園歌。野田一夫初代学長が目指した多摩大学の学園歌とは、傑出した歌詞とメロディーでいつの間にか広く歌われるようになり、「実はこの歌は多摩大学の校歌だ」と言われるようになること。

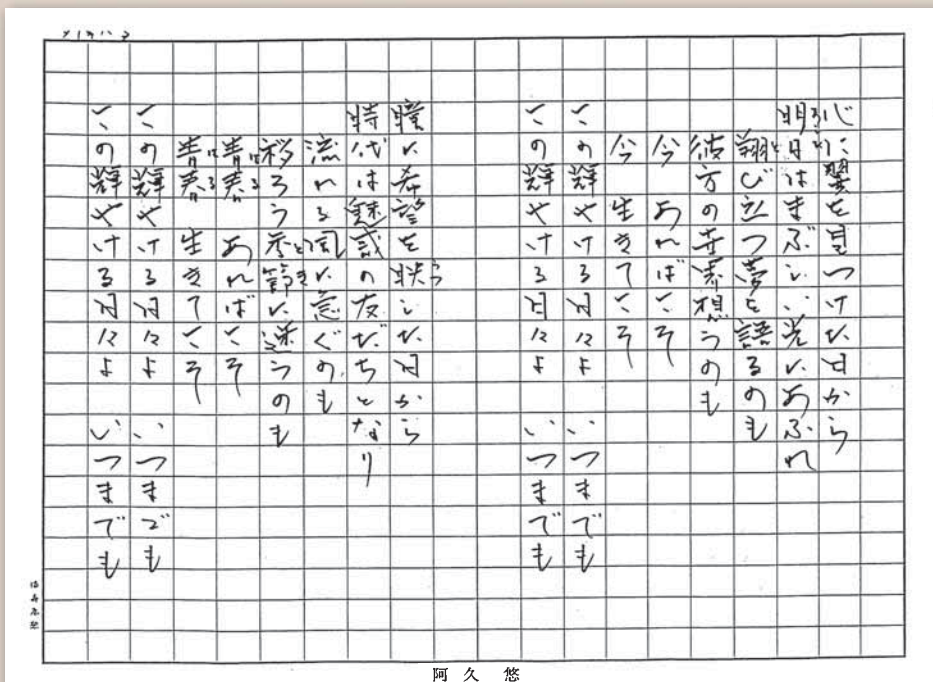
そこで、野田一夫初代学長の幅広い人脈の中から選ばれたのは、日本の歌謡文化をつくったと言っても過言ではない今は亡き作詞家 阿久悠氏と作曲家 三木たかし氏のゴールデンコンビでした。

多摩大学学園歌のレコーディングは、当時、新設のレコード会社「ファンハウス」の若き社長 新田氏がかねてより野田初代学長の信奉者だったことから「ファンハウス」が進んで取組み、有望な新人歌手佐藤竹善を起用して約1万枚のCD、テープ、およびレコードを制作しました。開学一年前には関係各方面に配付したことで、多摩大学のイメージアップに効果を発揮しました。

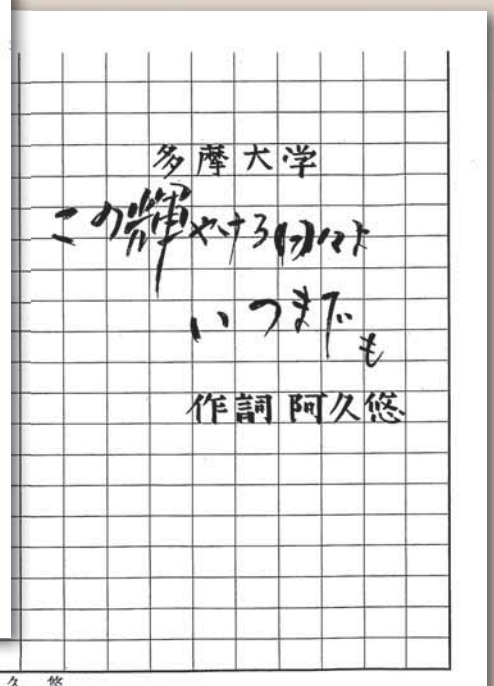
(出典 室伏哲郎責任・編集「シリーズ大学は挑戦する 多摩大学」)



三木たかし氏直筆の楽譜



阿久悠氏直筆の歌詞



阿久悠